

# 園内研修のスケジュール例

## 1. 一日の時間の流れ

- ① 9時には開始させていただけるよう、寄せていただきます。
- ② 午前中、各部屋を訪ね、対象となるこどもの様子を観察させていただきます。
- ③ 午後から各部屋の保育者の方にフィードバックをさせていただきます。
- ④ ③が終了次第、園を退出させていただきます。

## 2. 当日の保育

保育は通常通りに行ってください。こどもを観察しやすいように、散歩の時間をずらしてくださる、保育内容を変えてくださる場所もありますが、それはこどもと担任の方によることではありませんので、通常通りとしてください。

## 3. 対象となるこども

担任の方で、関わりに戸惑いを感じるこども、保護者対応が難しいこどもが対象になると思います。すでに療育に行っている、診断がついているなど対応の方向性が見つかっているこどもよりも、相談機関にはつながっていない、どうしていいのかわからないこどもや保護者についてお話させていただく方がお役に立つと思います。また、診断はついている、療育にも行っている、けれども、園では対応に困る、といったこどもや保護者を挙げていただいてもよいと思います。

## 4. 対象となるこどもの人数

各部屋でご相談に挙げていただくこどもの人数はおまかせします。園によっては、各部屋5名程度、というところもあれば、もっと多いところもあります。在籍するすべてのこどもとおっしゃるところもありますが、そうすると、ひとりひとりをお話しする時間が短くなり、流れ作業のようになりますので、それはよくないと思います。

## 5. 対象となるこどもの提示

これも園によりですが、こどものプロフィールや顔写真、質問をA4サイズ1枚に表したものをお預かりして、午前中に訪ねさせていただくこともありますし、こどもの名前と担任からの質問だけを部屋ごとにまとめたものを渡していただくこともあります。名前だけを記載した名簿のみをお預かりすることもあります。

写真の提示がない資料をいただいた場合、できましたら、午後のフィードバックの時間に、こどもの顔がわかる、個別でも集団でもよいので、写真を見せていただくと助かります。

今回の研修のためだけに記録をまとめる、写真をとる、というのは、担任の負担が増えるだけですし、こどもにとっても、なぜ写真をとられるのか困りもしますでしょうから、園でほかに必要な記録と兼ねているならいいのですが、無理のない範囲でご用意ください。

また、事前に送っていただくことは不要です。当日、いただければ結構です。

## 6. 観察するとき

特に感染などで問題がなければ、各部屋に入らせていただきます。それがかなわないようでしたら窓越しでも構いません。できましたら、どなたかがついていただくと助かります。園によりますが、園長がついてくださるところもあれば、主任、もしくは、研修担当など、どなたかがついてくださるところが多いです。対象となるこどもを教えていただく、保育の流れをお尋ねする、といったことがありますので、お願いできればと思います。もちろん、ずっとついてくださらなくて結構です。お仕事とあわせて適宜で十分です。

おおよそ、こどもたちの昼食の様子までを見学させていただきます。

## 7. フィードバック

午後からフィードバックをさせていただくことが多いです。例えば、13時から部屋ごと40分程度や、こどもの人数に応じて、30分の部屋もあれば、1時間のところもあります。それはおまかせします。

また、そのときですが、各部屋の担任が全員参加される園もあれば、主たる担当のみ、というところもあります。なかには、その時間に休憩の方や出席できる方がいらっしゃれば、担任以外でもフィードバックに参加されるところもあります。シフトやフリーの方の動き、休憩の保障もありますので、園におまかせしています。

各部屋のフィードバックのときに、園長や主任の方のどちらか、もしくはお二人がずっと同席して、記録していらっしゃるところがほとんどです。それもおまかせします。

午後からだて職員のシフトや残業のことがあるとのことから、午前中より一部の部屋のフィードバックを始めるところもあります。

## 8. 質問いただく内容

ご質問をいただく内容ですが、どのような内容でもいいです。色鉛筆、はさみ、お箸など道具の使い方、運動、行動、言葉、生活習慣、母子関係、家庭のこと、療育との関係など、なんでもです。なんでもお尋ねいただければ結構です。

## 9. そのほか

来園させていただいたときに資料をお預かりします。そして、園長、主任、研修担当の方と当日の時間の流れをご相談いただいたりします。

フィードバックの終了後、園長と主任の方とでまとめを行う園もありますし、そういったことなく終了というところもあります。おまかせします。

以上、保育園、幼稚園、こども園を例として、職位を一般的な呼称として、敬称を略して記載させていただきました。